

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいる教育課程:B課程教育機関)

分野:がん薬物療法看護

平成 31 年 3 月作成

令和 3 年 3 月改正(共通科目及び特定行為研修区分別科目のみ)

令和 4 年 1 月下線部修正・追記(共通科目のみ)

(目的)

1. がん薬物療法看護分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践できる能力を育成する。
2. がん薬物療法看護分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成する。
3. がん薬物療法看護分野において、看護職等に対しコンサルテーションを行える能力を育成する。
4. がん薬物療法分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成する。

(期待される能力)

1. がん薬物療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。
2. がん薬物療法に関する臨床推論、病態判断に基づき、適正ながん薬物療法の遂行と有害事象マネジメントができる。
3. がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力を高め、がん薬物療法の遂行と患者が望む療養生活の実現を支援することができる。
4. がん薬物療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チーム医療のキーパーソンとして役割を果たすことができる。
6. がん薬物療法の分野において役割モデルを示し、看護職への指導、看護職等へのコンサルテーションを行うことができる。

(コアとなる知識・技術)

1. がん薬物療法の治療計画に関する知識
2. がん薬物療法の適正な投与管理とリスクマネジメントを行うための知識・技術
3. がん薬物療法に伴う症状緩和のための知識・技術
4. 患者が自宅で治療管理や有害事象に対応するための、個別的な患者教育(安全な薬物療法の実施に向けた服薬アドヒアランス、副作用対策)を行う知識・技術
5. がん薬物療法を受ける患者・家族の意思決定支援のための知識・技術
6. がん薬物療法を受ける患者・家族が望む療養生活を支援するための知識・技術
7. がん薬物療法の曝露対策ができる知識・技術

教科目一覧

科目名	教科目名	時間数*		
共通科目	1. 臨床病態生理学	40	380	
	2. 臨床推論	45		
	3. 臨床推論:医療面接	15		
	4. フィジカルアセスメント:基礎	30		
	5. フィジカルアセスメント:応用	30		
	6. 臨床薬理学:薬物動態	15		
	7. 臨床薬理学:薬理作用	15		
	8. 臨床薬理学:薬物治療・管理	30		
	9. 疾病・臨床病態概論	40		
	10. 疾病・臨床病態概論:状況別	15		
	11. 医療安全学:医療倫理	15		
	12. 医療安全学:医療安全管理	15		
	13. チーム医療論(特定行為実践)	15		
	14. 特定行為実践	15		
	15. 指導	15		
	16. 相談	15		
	17. 看護管理	15		
専門科目	認定看護分野専門科目	1. がん看護学総論 (がん領域共通学習内容)	30	225
		2. 腫瘍学概論 (がん領域共通学習内容)	15	
		3. がんの医療サービスと社会資源 (がん領域共通学習内容)	15	
		4. がん薬物療法概論	15	
		5. がん薬物療法薬の知識	15	
		6. 主な疾患のがん薬物療法	30	
		7. がん薬物療法を受ける患者・家族のアセスメント	15	
		8. がん薬物療法の治療計画と看護	15	
		9. がん薬物療法の投与管理とリスクマネジメント	30	
		10. がん薬物療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	30	
		11. がん薬物療法を受ける患者の継続支援体制	15	
専門科目	特定行為研修区分別科目	1. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	22	22
演習・実習	統合演習	15	165	
	臨地実習	150		
合計時間数			792	

* 認定看護師教育基準カリキュラムでは45分を1時間とみなす「みなし時間」を適用している。特定行為研修は60分を1時間とする「実時間」を適用しているが、該当教科目の時間数は全て「みなし時間」で設定し表記している。

■共通科目

教科目	ねらい	単元 (ゴシック体:特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の学習内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}	時間数
1.臨床病態生理学	1) 臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 2) 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1) 臨床解剖学 2) 臨床病理学 3) 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	40
2.臨床推論	1) 症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1) 診療のプロセス 2) 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習 3) 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4) 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5) 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	45
3.臨床推論: 医療面接	1) 医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1) 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習(医療面接) [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価	15
4.フィジカル アセスメント: 基礎	1) 身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学(演習含む)を学ぶ 1) 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2) 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/ 胸部/腹部/四肢・脊柱/ 泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/ 神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習(身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価	30
5.フィジカル アセスメント: 応用	1) 小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 2) 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1) 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2) 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	30

教科目	ねらい	単元 (ゴシック体:特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の学習内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}	時間数
6.臨床薬理学: 薬物動態	1)安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	薬剤学、薬理学を学ぶ 1)薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	[授業形態] 講義及び演習(事例を用いた検討を含む) [評価方法] 筆記試験	15
7.臨床薬理学: 薬理作用	1)安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1)主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	[授業形態] 講義及び演習(事例を用いた検討を含む) [評価方法] 筆記試験	15
8.臨床薬理学: 薬物治療・管理	1)安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1)主要薬物の相互作用の理論と演習 2)主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性(小児/高齢者)を含む	[授業形態] 講義及び演習(事例を用いた検討を含む) [評価方法] 筆記試験	30
9.疾病・臨床病態 概論	1)主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1)主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/ 悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	40
10.疾病・臨床病態 概論:状況別	1)状況に応じた臨床診断・治療(救急医療、在宅医療等)を理解する。	状況に応じた(あらゆる年齢・対象を含む)臨床診断・治療を学ぶ 1)救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2)在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	15
11.医療安全学: 医療倫理	1)実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性(自己決定)を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習・実習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1)特定行為実践に関連する医療倫理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	15

教科目	ねらい	単元 (ゴシック体:特定行為研修 共通科目 【学すべき事項】に記載の学習内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}	時間数
12.医療安全学: 医療安全管理	1) 医療現場における安全管理をめぐり取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。 2) 提供するケアの質保証について理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習・実習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1) 特定行為実践に関連する医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ ①医療管理 ②医療安全 ③ケアの質保証	[授業形態] 講義、演習及び実習(医療安全)★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価	15
13.チーム医療論 (特定行為実践)	1) 質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習・実習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1) 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(Inter Professional Work(IPW))(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ ①チーム医療の理論と演習 ②チーム医療の事例検討 ③コンサルテーションの方法 ④多職種協働の課題	[授業形態] 講義、演習及び実習(チーム医療)★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価	15
14.特定行為実践	1) 特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程(理論、演習・実習)を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1) 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2) 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験	15

★「12.医療安全学:医療安全管理」と「13.チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	ねらい	単元 (ゴシック体:特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の学習内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}	時間数
15.指導	1) 組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1) 生涯教育と生涯学習 2) 成人学習者への教育 3) 教材観(主題観)、対象者観、指導観 4) 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。	15
16.相談	1) 対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1) コンサルテーションの概念 2) コンサルテーションの方法 3) コンサルテーションの実際	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。	15
17.看護管理	1) 看護専門職として必要な看護管理に関する基本的知識・技術を理解し、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や実践のアウトカム評価について検討する。	1) ヘルスケアシステムの構造と現状 2) 看護サービスの質管理 3) 組織における認定看護師の位置づけと役割の明確化 4) 看護実践のアウトカム評価	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート等による評価のいずれでもよい。	15

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われること。ただし、単に医療現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「相談」「看護管理」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

上記は「保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」の一部改正について（令和元年5月7日付け医政発 0507 第7号厚生労働省医政局通知）より引用。特定行為研修の詳細については厚生労働省のホームページで確認のこと。

■専門科目・統合演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単元・学習内容 片括弧は単元、両括弧以下は学習内容を示す	時間数
認定看護分野専門科目	1. がん看護学総論 (がん領域共通学習内容)	1) がん看護に必要な基礎知識が理解できる。 2) がん患者・家族を理解するために必要な概念・理論 (1) 危機理論 (2) セルフケアに関する理論 (3) ストレスコーピング理論 (4) 自己効力感 4) がん看護の専門性とがん医療チームにおける認定看護師の役割・機能 (1) がん看護認定看護師の専門性 (2) がん医療における対人関係能力 5) がん患者のリハビリテーション (1) 治療支援 (2) 機能維持 (3) アピアランスケア 6) 緩和ケアの概念 (1) トータルペイン (2) 全人的理解 7) 補完代替療法 8) がん看護実践に必要な看護倫理 (1) 看護師の倫理綱領 (2) インフォームドコンセント (3) ACP (アドバンス・ケア・プランニング)	30
	2. 腫瘍学概論 (がん領域共通学習内容)	1) がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識が理解できる。 2) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (2) 細胞増殖 (3) がん化のプロセス (4) がんと免疫 2) がんゲノム (1) ヒトゲノム (2) がん遺伝子、がん抑制遺伝子 (3) 遺伝子変異 (生殖細胞系列、体細胞) 3) がんの疫学 (統計)、がんの予防、検診 4) がん治療のための診断 (1) 病理検査 (2) 腫瘍マーカー (3) 画像検査 (4) 遺伝子検査 5) 集学治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 薬物療法 (4) 免疫療法	15

教 科 目		教科目のねらい	単元・学習内容 片括弧は単元、両括弧以下は学習内容を示す	時間数
認定看護分野専門科目	3. がんの医療サービスと社会資源 (がん領域共通学習内容)	1) がん患者の療養生活に必要な支援を提供できる知識・技術について理解できる。	1) がんの保健医療政策 (1) がん対策基本法、がん対策推進基本計画 (2) がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院 (3) がん相談支援センター (4) 診療報酬制度 (5) がん登録 (6) がん教育 2) がんの医療経済 (就労支援、治療費) 3) がん患者・家族が活用できる社会資源 (1) 高額療養費制度 (2) 障害年金 (3) 傷病手当 (4) 介護保険 (5) 生活保護 (6) 患者会 4) 地域包括ケアシステムにおけるがん診療連携 (1) 在宅医療・介護の仕組み (2) 在宅医療・介護を支える職種の連携 (3) 在宅療養するがん患者と家族を支援する認定看護師の役割	15
	4. がん薬物療法概論	1) がん薬物療法の歴史、専門用語を理解し、治療の原則を理解する。 2) 他のがん治療法との併用による、集学的がん薬物療法が理解できる。 3) 目的別、成長発達段階別のがん薬物療法が理解できる。 4) がん薬物療法薬の開発と臨床試験データ、EBMに基づいた診療ガイドラインの活用方法が理解できる。	1) がん薬物療法の変遷 2) がん薬物療法領域で用いられる用語の理解 3) がん薬物療法の原則 (1) 目的、役割 (2) 適応基準 (3) 治療の方法 (4) 治療選択基準(クリニカルシーケンスを含む) (5) 治療効果の評価(RECIST など) (6) 有害事象の評価(CTCAE、MASCC スコアなど) 4) 集学的がん薬物療法 (1) 手術との併用(術前・術後) (2) 放射線療法との併用(同時、逐次、RIT) 5) 臓器障害時、高齢者、小児・AYA 世代のがん薬物療法 6) がん薬物療法とEBM (1) がん薬物療法薬の開発プロセス (2) 治験・臨床試験(第Ⅰ相、第Ⅱ相、第Ⅲ相、第Ⅳ相)の目的、対象、方法、治験コーディネーターの役割 (3) 診療ガイドラインの活用方法	15

教 科 目		教科目のねらい	単元・学習内容 片括弧は単元、両括弧以下は学習内容を示す	時間数
認定看護分野専門科目	5.がん薬物療法薬の知識	1)がん薬物療法薬の薬物動態、有害事象、取り扱い方法が理解できる。	1)がん薬物療法薬の薬物動態 (1)吸収、分布、代謝、排泄 (2)薬物相互作用(抗腫瘍薬間、抗腫瘍薬と一般薬、抗腫瘍薬とサプリメント・食事) 2)がん薬物療法薬の作用機序、有害事象、薬の取り扱い方法 (1)殺細胞性抗がん薬 (2)分子標的療法薬 (3)免疫チェックポイント阻害薬	15
	6.主な疾患のがん薬物療法	1)主な疾患の病態と標準的がん薬物療法、最新の動向について理解できる。	1)主な疾患(病態、治療方法、薬の理解)の標準的がん薬物療法と最新の動向(プロトコール、治療成績、有害事象、注意点) (1)頭頸部がん (2)乳がん (3)肺がん (4)消化器がん (5)婦人科がん (6)泌尿器がん(胚細胞性腫瘍を含む) (7)造血器腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) (8)その他	30
	7.がん薬物療法を受ける患者・家族のアセスメント	1)がん薬物療法を受ける患者・家族の置かれている状況を理解できる。 2)看護援助を効果的に実施するためのアセスメント方法を理解できる。 3)アセスメントに基づき、がん薬物療法を受ける患者の倫理的課題について検討することができる。 4)がん薬物療法を受ける患者・家族の意思決定プロセスについて理解し、場面に応じた認定看護師の役割を知ることができる。 5)事例を用いて、学習した知識を適用する方法を理解できる。	1)がん薬物療法を受ける患者・家族の状況 (1)がん患者の心理プロセス (2)精神症状(不安、抑うつ、せん妄、適応障害など) (3)認知機能 (4)家族の支援 2)がん薬物療法を受ける患者の包括的アセスメント (1)臨床推論(フィジカルアセスメント、検査データ、問診など) (2)心理・社会的アセスメント (3)成長発達段階のアセスメント 3)治療経過に伴う包括的アセスメント (治療開始時、継続時、急変時、再発時など) 4)がん薬物療法を受ける患者の倫理的課題 5)患者・家族の意思決定プロセス 6)意思決定に関する要因のアセスメントと意思決定を支える看護援助 7)意思確認のコミュニケーション 8)事例検討	15
	8.がん薬物療法の治療計画と看護	1)がん薬物療法の治療計画(レジメン)の特徴とそれに応じた看護計画の立案方法が理解できる。 2)事例を用いて、学習した知識を適用する方法を理解できる。	1)がん薬物療法治療計画(レジメン)の特徴と看護 (1)レジメンの特徴(投与量、投与方法、注意点、有害事象、支持療法など) (2)治療のリスクアセスメント (3)既存疾患やがん疼痛などの薬物療法との併用 2)代表的ながん薬物療法レジメン(標準治療)の看護支援計画 (1)レジメンの理解と注意点 (2)レジメン看護のポイント 3)事例検討	15

教 科 目	教科目のねらい	単元・学習内容 片括弧は単元、両括弧以下は学習内容を示す	時間数
認定看護分野専門科目 9.がん薬物療法の投与管理とリスクマネジメント	1)がん薬物療法薬の投与経路別管理と安全な取り扱い方法が理解できる。 2)がん薬物療法に関するリスクマネジメント、緊急対応、感染予防対策について理解できる。 3)がん薬物療法による曝露の影響と対策が理解できる。	1)投与経路別の管理方法 (1)経静脈的投与(投与管理演習を含む) ①血管のアセスメント、穿刺手技 ②血管アクセス用具(VADs)の種類と特徴、適応、取り扱い上の注意点、 ③皮下埋込式ポートの取り扱い (2)経動脈的投与 ①皮下埋込式ポートの取り扱い ②動脈穿刺時の介助、観察、注意点 (3)経口の投与 ①剤形と管理上の注意点 ②患者のアドヒアランス確認と支援 ③患者指導・相談支援 (4)その他の経路 ①皮下、筋肉 ②腔内注入 2)救急時の対応・システム整備 3)がん薬物療法に関する医療事故のリスクマネジメント (1)医療事故の現状(報告事例) (2)事例検討 (3)リスクマネジメント 4)血管内留置カテーテル由来の感染予防対策 5)レジメン登録システム 6)Hazardous Drugs の健康への影響とリスク分類 (1)HD の職業性曝露 (2)HD の曝露環境(経路、機会、場所) 7)曝露予防対策(演習を含む) (1)ヒエラルキーコントロール (2)環境整備 (3)適切な個人防護具(装着演習を含む) (4)調製・投与管理時(安全キャビネット、閉鎖式接続器具など) (5)飛散、針刺しなどへの対応 (6)排泄物の取り扱い、リネンの取り扱い、廃棄、清掃など 8)曝露の影響・対策に関する看護師への指導	30

教 科 目		教科目のねらい	単元・学習内容 片括弧は単元、両括弧以下は学習内容を示す	時間数
認定看護分野専門科目	10.がん薬物療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	<p>1)がん薬物療法に伴う有害事象を理解し、効果的な対応方法についてアセスメントすることができる。</p> <p>2)がん薬物療法の有害事象に対する症状緩和技術とセルフケア支援方法が理解できる。</p> <p>3)事例を用いて学習した知識を適用する方法が理解できる。</p>	<p>1)がん薬物療法の有害事象の出現形態 (1)オンコロジックエマージェンシー (2)急性症状 (3)遅発性症状 (4)晩期症状</p> <p>2)殺細胞薬、分子標的薬、免疫療法薬の有害事象の特徴とアセスメント</p> <p>3)代表的な症状の理解とアセスメント (1)要因 (2)発生機序 (3)出現形態 (4)評価方法 (5)予防と効果的な対応方法(薬物療法、補完代替療法など)</p> <p>4)症状マネジメントのために必要な知識 (1)患者の症状体験 (2)セルフケア能力 (3)QOLの維持をめざした支援方法</p> <p>5)患者教育に用いる資材の適切な選択</p> <p>6)患者指導・相談支援</p> <p>7)事例検討</p>	30
	11.がん薬物療法を受ける患者の継続支援体制	<p>1)あらゆる場の多職種と協働し、患者・家族にシームレスな看護支援を提供する方法が理解できる。</p>	<p>1)がん薬物療法を受ける患者の相談支援 (1)がん相談支援室の現状と運営 (2)電話相談(トリアージ含む) (3)患者教育・支援プログラムの企画・運営</p> <p>2)入院、外来、在宅でがん薬物療法を受ける患者の継続支援体制 (1)他部門との協働(医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、訪問看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど) (2)地域連携パスの仕組みと運用</p> <p>3)がん薬物療法を受ける患者の就労支援</p> <p>4)がん薬物療法を受ける患者の災害時の支援と課題</p> <p>5)事例検討</p>	15

教科目(特定行為名)		概要	単元	時間数	授業形態※3 評価方法※4
専 門 科 目 (特 定 行 為 研 修 区 分 別 科 目)	共 通 し て 学 ぶ べ き 事 項	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	1) 循環動態に関する局所解剖 2) 循環動態に関する主要症候 3) 脱水や低栄養状態に関する主要症候 4) 輸液療法の目的と種類 5) 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 6) 輸液時に必要な検査 7) 輸液療法の計画	22	[授業形態] 講義及び 演習実習 [評価方法] 筆記試験 各種実習の 観察評価
		脱水症状に対する輸液による補正			
	特 定 行 為 に 関 連 し て 学 ぶ べ き 事 項	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	1) 医師の指示の下、手順書により、身体所見(食事摂取量、栄養状態等)及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整を行う。		
脱水症状に対する輸液による補正		1) 医師の指示の下、手順書により、身体所見(食事摂取量、皮膚の乾燥の程度、排尿回数、発熱の有無、口渇や倦怠感の程度等)及び検査結果(電解質等)等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、輸液による補正を行う。	1) 脱水症状に関する局所解剖 2) 脱水症状の原因と病態生理 3) 脱水症状に関するフィジカルアセスメント 4) 脱水症状に関する検査 5) 脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理 6) 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法 7) 脱水症状に対する輸液による補正の副作用 8) 脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9) 脱水症状の程度の判断と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等)		

- ※3 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。
- 「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われること。ただし、単に医療現場にいるだけでは、実習として認められないこと。
- ・実習においては、病態判断から特定行為実践後までの一連の過程を効果的に学べるよう適切に行うこと。
 - ・患者に対する実技を原則とし、当該指定研修機関が設定した特定行為研修の到達目標が達成されるよう、行為の難度に応じて5例又は10例程度の必要な症例数を指定研修機関において適切に設定すること。なお患者に対する実技を行う実習の前には、ペーパーシミュレーション、ロールプレイ、模擬患者の活用、シミュレーターの利用等のシミュレーションによる学習を行うこと。ただし、これらは実習の症例数には含まないこと。
 - ・患者に対する実技を行う実習の際には、1例目は、指導者が行う行為の見学又は手伝い、2例目からは、指導者の指導監督下で行う。次第に指導監督の程度を軽くしていく（指導者の判断で実施）ことが望ましいこと。
- ※4
- ・全ての区分別科目において筆記試験及び構造化された評価表を用いた観察評価を行うとともに、一部の科目については実技試験（OSCE: Objective Structured Clinical Examination（臨床能力評価試験））を行うものとする。
 - ・実技試験（OSCE）が必要な区分別科目においては、患者に対する実技を行う実習の前に、実技試験（OSCE）を行うこと。
 - ・区分別科目における実習の評価は、構造化された評価表（Direct Observation of Procedural skills (DOPS) 等）を用いた観察評価を行うこと。また、構造化された評価表を用いた観察評価では、「指導監督なしで行うことができる」レベルと判定されることが求められること。
 - ・指導者は、特定行為研修における指導に当たっては、受講者にポートフォリオを利用して評価結果を集積し、自己評価、振り返りを促すことが望ましいこと。
 - ・実技試験（OSCE）については、指定研修機関及び実習を行う協力施設以外の医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療関係者を含む体制で行うこと。また筆記試験及び構造化された評価表を用いた観察評価については、指定研修機関及び実習を行う協力施設以外の医師、歯科医師、薬剤師及び看護師その他の医療関係者を含む体制で行うことが望ましいこと。
- 上記は「保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」の一部改正について（令和2年10月30日付け医政発1030第4号厚生労働省医政局通知）より引用。
- 特定行為研修の詳細については厚生労働省のホームページで確認のこと。

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
統 合 演 習	統合演習	1) 演習を通して、認定看護師の実践の基盤となる思考過程やまとめる技術を習得できる。	1) 臨地実習後の事例検討 2) 臨地実習での受け持ち患者のケースレポート作成・発表(文献検索を含む)	15
臨 地 実 習	臨地実習	1) 本課程で学んだ知識・技術を活用し、がん薬物療法看護認定看護師に必要な実践・指導・相談の役割を展開する能力を習得できる。	1) 以下の状況の2事例以上を受け持ち、看護過程を展開する。 (1) 受け持ち患者の要件 ①がん薬物療法が行われている病棟・外来におけるがん薬物療法中の患者 (2) 実習課題および内容(①②を最低1事例ずつ受け持つ) ①安全な投与管理(経静脈投与) ②有害事象の症状マネジメント 2) がん薬物療法看護における役割モデルを示し、薬物療法看護の知識・技術を指導する(対象: 集団あるいは個人)。 3) がん薬物療法看護に関するコンサルテーションを行う(対象: 看護師)。 4) がん薬物療法看護に専門的に関わっている認定看護師の活動をとおして、認定看護師の役割を考え、まとめる。 5) 実習施設でのがん薬物療法を安全・確実に実施するためのシステムについて見学実習、実習指導者へのインタビューを行う。	150